発行日 2018.9.3
第329号 画像NEWS愛宕地区社協 発行元 広報部

件名 尾津明神さまのエノキ伐採安全祈願祭 8/22(水) 神社総代

愛宕小学校校庭の一角に鎮座する明神さまのシンボルであるエノキの巨樹が、幹の空洞化や枯死による倒木の危険性があるため８/２７伐採の運びとなりました。
伐採に先立ち、白崎八幡宮より宮司をお迎えし、当地で安全祈願祭が執り行われました。

「愛宕小学校校歌の一節」
中略 ♪♪ えのきの森に小鳥ささやき 神も守りてかがやく歴史 ♪
（作詞 元島英三 作曲 山口正明 ）

8月26日撮影

岩柳

200歳エノキ伐採へ

愛宕小の「地域のシンボル」 岩国

倒木の恐れ 住民惜しむ

岩国市尾津町の愛宕小校庭にある尾津明神社のエノキが近く、伐採される。推定樹齢200年の老大木。幹の空洞化や枯死による倒木の危険性が増しているためで、住民からは「地域のシンボル」との別れを惜しむ声も出ている。22日、現地で伐採の安全祈願祭があった。（松本恭治）

エノキの老木を前に、伐採の安全を祈る住民たち

辻厳槻のエノキは○○の写真などによると、高さ約20m、幹回りは○○m、樹齢は大正から昭和にかけて○○本の木が社殿を○○の森」と歌われているが、次々と枯死したり、○○年発行の同小百年誌」○○、雄守の森を形成○○るが、次々と枯死した

のかな今は1本だけ残る。

老木の存在感は、校から神社周辺に植えられたとみられるクロガネモチなどに比べて際立つ。「スケッチの題材にもなり、児童も親しんできた」と住良

しかし異常気象が続く中、周木や枯枝の欠落による児童の事故

て、27、28日の平成で伐採することが決まった。鳥居近くにあるクロマツの大木も一緒に切る。

地元で生まれ、同小の○○生でもある弘○○さん（71＝同市門前町＝は「エノキの周りを走り回ってよく遊んだ。安心安全に

勝るものはないが、地○には民たち約30人○○を拾って食べたの○○が集まり、伐採の安全○○が慎ましい。子どもたち○○を守ってくれた老○に感謝したい」と話し○○。

高崎○○さん（82＝同町○○は「戦後、落ちてき○○していた。

中国新聞紹介記事